

【西区】令和元年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 6 月 3 日 16 時 00 分 ～ 17 時 34 分
場 所	西区役所 4 階 4 A 会議室
出席者	<p>【座長】 清水富雄議員</p> <p>【議員：2 名】 清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：14 名】 寺岡洋志区長、松井達也副区長、宮川淳一消防署長、塚本光俊福祉保健センター長、小黒大治福祉保健センター担当部長、川北好伸土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和元年度 西区運営方針について</p> <p>2 令和元年度 西区主要事業の進捗状況について</p> <p>3 その他</p>
発言の要旨	<p>【令和元年度 西区運営方針について】</p> <p>【令和元年度 西区主要事業の進捗状況について】</p> <p><障害のある人も住みやすいまちづくり事業について></p> <p>荻原議員：障害のある方との共生は、重要な政策課題。障害のある方と実際に接してみなければ分からないこともあるので、特に地域の活動に携わっている方が触れあえる機会を増やすべき。施設でも地域に向けた行事等を行っているので広報の部分を支えてほしい。障害の理解促進について、区が最も重要と考えているものは何か。</p> <p>山田高齢・障害支援課長：障害には、それぞれ特性があり、特性に合わせ支援する必要があるということを知ってもらうことが重要。災害時に障害のある方を守ることが最大の目標。</p> <p>西区では、全ての障害者施設が自立支援協議会に参画し、区と円滑な関係にある。災害時の対応や啓発活動など、今後も自立支援協議会と一緒に進めていく。自立支援協議会と協力して、障害のある方が地域に積極的に出て行くよう働きかけている。</p> <p>松井副区長：お互いを知った上で、関係を深めていくことが非常に大事。地域の行事や施設の行事を通じて関係が更に深まるよう取り組む。</p> <p>小黒福祉保健センター担当部長：次期地域福祉保健計画の策定に向け、地域と十分に意見交換し、計画に盛り込んでいく。</p>

<子育て支援の推進、交通安全事業について>

清水議員：保育園の子ども達が散歩の際に交通事故に遭うなど、子ども達が被害に遭う交通事故等が頻繁に報道されている。

以前、横浜市でも、交差点に車止めのポールが無い交差点で、車が突っ込む事故があった。交差点には段差があるが、あの段差には車を止める効果はあるのか。また、段差が全くない場所もある。

川北土木事務所長：交差点には、通常2センチ程度の段差があるが、この段差に車を止める効果はなく、段差が全くない特殊な形状の場所もある。

清水議員：保育士と子ども達が手をつなぎ散歩をしている姿を見て、危険を感じてしまう。保育において、散歩はとても重要だと思うが、安全を確保するためには、散歩コースの点検も含めしっかりと対策を検討する必要がある。

柴田学校連携・こども担当課長：保育園の園長会において、滋賀県大津市の事件を受け、散歩コースの危険箇所の洗い出しや、他の園で気をつけている所や体制等について地区別に意見交換を行った。道路局の記者発表では、市内の保育・教育施設から要望があった交差点について点検、対策を検討するとしている。区では、園長会での意見交換や情報収集する体制を継続していく。

荻原議員：道路局による市全域での緊急点検について、西区の緊急点検の対象箇所とスケジュール、対策の必要性について聞きたい。

川北土木事務所長：市内の信号交差点3,500か所のうち、横浜市内で256か所、西区では17か所が抽出された。西区17か所のうち、事故発生の視点は6か所、歩行者密集の視点は11か所。抽出された交差点について、戸部警察とともに、6月に1回点検し、その後、危険性や対応策の有無について、再度確認する。西区については、ほとんどが幹線道路で、広い歩道の所が多く、ボラードやガードレールはほぼ設置されている。

<家計のやりくり応援事業について>

清水議員：家計のやりくり応援事業について、詳しく聞きたい。

岩井生活支援課長：平成27年度に始まった生活困窮者自立支援制度は、生活保護のような現金給付ではなく、自立に向けた人的支援を中心とした制度。

西区の特徴は、支援申込者のうち、家計相談の割合が高く、税務課や保険年金課の収納担当から相談が繋がる割合が高い。収入はあるが払えないという方もかなりいる。

この家計改善のニーズに効率的に対応するため、支援ツールを製作することとした。この支援ツールにより、専門の職員以外でも対応ができるようになることを期待している。

<令和元年度 西区運営方針（まちの回遊性向上とにぎわいづくり）について>

荻原議員：障害者スポーツに親しむ機会について、西区ではどのような取組・支援があるのか。地域住民と一緒にできる場を作るなど、障害者スポーツを広げてほしい。

西野地域振興課長：昨年度の平沼小学校のスポーツ教室では、視覚障害と聴覚障害がある陸上選手のご夫婦にお越しいただき、講演と実技体験を実施した。今年度はスポーツイベントで、ボッチャ等のブースを設けることを検討している。

<商店街及び「まち」のにぎわい創出事業、
地域資源を活用したまちの回遊性向上事業について>

荻原議員：ことりっぷは、良い事業と評価している。英語版にも期待しており、バス、タクシー、飛行機等の交通機関での配布も考えられる。具体的な配布場所や利用方法を聞きたい。

村上区政推進課長：英語版ことりっぷは、ラグビーワールドカップに合わせ、桜木町駅、みなとみらい駅、横浜駅等に設置されるインフォメーションブースで配布したいと考えており、オリンピック・パラリンピックの1年前イベント等でも、西区の魅力発信として配布を考えている。観光案内所、区内の主要ホテル、旅客ターミナル等でも配布できるよう調整したい。

<ベイバイクを活用した「まちの回遊性向上」について>

清水議員：区内のベイバイクのサイクルポートがだいぶ増えてきた。久保町やニコニコ商店街方面にも、自分の土地を提供してサイクルポートを設置したいという声も出ている。ベイバイクについては、期間が終わったら終了ではなく、商店街の活性化等、西区の未来に効き目のある取組とするのが良いと思うが、今後の展開をどう考えているか。

寺岡区長：商店街の方から商業活動の中でも大変便利だという声も聞いているので、設置場所の話があれば区に繋いでほしい。久保町や浅間町方面へのサイクルポート設置はまだできていないが、大規模イベント等を契機に局や事業所と調整し、サイクルポートの設置に積極的に取り組んでいく。

清水議員：来街者の期待に応えるためには、受け入れる側の体制はとても大切と考えている。区でもしっかり取り組んでほしい。

<地域防災活動推進事業>

荻原議員：多様な避難者への対応支援は重要。拠点カルテの具体的な取組、医療救護体制に係る区と局の関係、医療救護隊の詳細を聞きたい。

田丸総務課長：昨年度、横浜市立大学と共同で、老松中学校をモデルに拠点カルテを作成した。拠点カルテは、運営面、施設面など様々な視点で拠点の現状を分析したもの。今年度は、このカルテを活用して、他拠点への展開、具体的な支援策の検討を進める。

内田福祉保健課長：災害時医療の体系は3段階で、重症者を受け入れる災害拠点病院、中等症者を受け入れる災害時救急病院、軽症者を受け入れる区内の診療所がある。

医療救護隊とは、区役所を本部として、医師、看護職、薬剤師、調整員が5人程度でチームを組み、地域防災拠点を巡回する仕組み。今後も体制の強化等を進めていく。

塚本福祉保健センター長：昨年度、医療救護隊を2チーム編成し、小学校、中学校の地域防災拠点で医師等によるトリアージ訓練を初めて実施した。今後も訓練を実施していく。

【その他】

＜東横線廃線跡地について＞

荻原議員：東横線廃線跡地の整備事業が遅々として進んでいない。今後、事業費が30億円必要と聞いたが、今年度の予算は3,000万円ということだった。具体的には、何を行うための予算なのか。西区の訴え、地域の要望を局に理解してもらい、連携していかなければならない。西区には、困難なところは再検討し、できるところはやっていくという方針で進めてもらいたい。

寺岡区長：令和3年度が完成目標と聞いているが、難しい目標だと考えている。施設整備に多額の予算を要すること、躯体が想定以上に痛んでいることなどから、どういった形で空間を機能させるのかを再検討するための予算を計上したと聞いている。局にはステーションオアシス計画の歩行者ネットワークとして位置付けることを期待している。地元の期待も大きい施設なので、局としっかり議論していく。

＜旧野毛山寮公園整備について＞

荻原議員：旧野毛山寮公園整備について、地域の皆様の自治意識は高く、自分達の手で子ども達に良い公園を残していきたいという思いがある。地域の方の思いを充分にくみ取り、連携を深め、地域の皆様の声を反映した公園作りを進めてもらいたい。

村上区政推進課長：旧野毛山寮の公園整備は、地域の長年の念願であることは区としても理解しており、今後も、地域の方に寄り添う支援をしていきたい。

寺岡区長：局も含め、できる限り地域の思いを形にしようと考えており、実現に向けて区役所が果たす役割も大きいと考えている。地域の方に良いものができたと思ってもらえるものにしていきたい。

備 考